



TITLE:

# <資料・研究報告>水族館記録 1992年

AUTHOR(S):

荒賀, 忠一

---

CITATION:

荒賀, 忠一. <資料・研究報告>水族館記録 1992年. 瀬戸臨海実験所年報 1994, 7: 26-27

ISSUE DATE:

1994-01-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/178893>

RIGHT:

## 水族館記録 1992 年

1. 226 号水槽はイワシ類・アジ類などの小型回遊魚の飼育・観察に用いられてきたが、43 m<sup>3</sup>の大容量とドーナツ状の回遊型式が遊泳性のイカの飼育にも適していると考えられるので、1 月 12 日より 2 月 13 日の間に、初めての試みとして、釣りで採集したアオリイカ（外套長 20~28 cm）10 個体を、この水槽に収容した。従来、小型水槽でしばしば起きた壁面への衝突による外套後端の損傷は、ほとんど見られず、最長で約 3 か月間飼育できた。同居している小アジがアオリイカに捕食されるのは承知の上であったが、予期に反してイカは冷凍アジの切り身に餌付きし、生きた小アジへの攻撃は観察されなかった。

2. イタリアのサルディニア島にある国際海洋研究所のロザルバ・ムルジア研究員は 1 月 13 日より 3 月末まで当所に滞在し、水族飼育と水産増殖の実務を研修した。

3. 前年の 10 月に入手したサツオミシマ（全長 45.5 cm）を 1 月 31 日より 304 号水槽に展示したが、昨秋以来ほとんど餌付きせず、2 月 13 日に死亡した。

4. 4 月 7 日、オニカマスの幼魚を飼育中の 1 m<sup>3</sup>予備水槽に、新着のシビレエイを同居さ

せたところ、オニカマス幼魚が狂奔し、2 個体が死亡した。

5. 江川漁港のエビ潜ぎ網でとれたコウダカクダヒゲエビ 8 個体を 6 月 2 日に入手。これは当館で初めての飼育例である。シャコの飼育テスト用に泥を厚く敷いた予備水槽に収容したところ、泥中に潜りし管状の第 1 触角を泥の表面に出す行動が観察された。

6. 7 月 12 日に日置川上流の法師谷で釣り上げられたイワナ（全長 21 cm）を入手し、324 号水槽に収容した。この魚が紀伊半島に固有のキリクチ（ヤマトイワナ型）ならば、その南限の記録が書き替えられることになるが、この個体は明らかにニッコウイワナ型で、アマゴの稚魚放流の際に紛れ込んだか、釣り人が個人的に放流したものと考えられる。

7. 416 号水槽の大型魚類を 9 月 22 日に第 2 水槽室へ移し、その機会に各個体の全長と体重を測定した。この作業はエチルグリコールモノフェニールエステルで麻酔して行ったが、測定時の不手際や移転後にヤイトハタに攻撃されるなどの原因で、オニカマス 3 個体が死亡した。主な魚類の測定値は表 1 のとうり。

表 1 416 号水槽で成長した主な魚類の測定値

種 名	入手当時の 全長 (cm)	飼育年数	全 長 (cm)	体 重 (kg)
オニカマス 1	平均 17	7	104	7.3
2	17	7	99	7.0
3	17	7	98	6.8
4	17	7	91	4.4
5	17	7	88	5.0
ツチホゼリ	21	19	68	7.9
ゴマフエダイ	15	7	67	6.1
クロハギ	23	6	53	2.5
コバンザメ	60	5	98	5.7

8. 改修工事のために10月1日より水族館の公開を休止した。閉館に前後して、第2・3水槽室内の動物移動・可搬式水槽の撤収・調理室の移転・再利用可能な飼育設備器具の回収などの作業を行った。また第3水槽室淡水生物コーナーの動物は、すべて元の生息地へ放流した。

9. 第3・4水槽室の改修と並行して101号水槽も観覧面ガラスと防水ライニングを更新するため、飼育魚類を撤収した。移動によるダメージが比較的少ない中型魚（マダイ他8種20個体）とサメ類（ドチザメ他3種3個体）は第2水槽室の各水槽に分散して収容したが、ヒラアジ類を始めとする大型魚は、従来の経験から、取り上げる際の表皮の損傷により継続飼育は不可能と判断し、涙をのんで9種59個体を処分した。そのうち主な魚類の最大個体の測定値を表2に示す。

10. 第4水槽室入口のニタリクジラ骨格標本を、10月15日、宿泊棟南側に移転した。改

修工事後、この標本は第4水槽室西側の壁際に展示する予定である。

11. 10月26日より改修部分の撤去工事開始。

12. 町内富田浦より12月10日にイレズミニザ（全長16cm）を入手。これは当館で初めての飼育例であるが、水温馴化に失敗し、翌日に死亡した。

13. 第2水槽室第4循環系統の保温装置が故障し、同系統の水温が31℃に異常上昇。このため227号水槽のヤイトハタ（全長127cm、体重41.6kg、27年間飼育）が死亡した。故障の原因は熱交換器の温水自動弁の誤作動で、これを修理して復旧。

水槽室関連機器の改修

1. 昨年末に故障した101号水槽恒温装置のヒートポンプは膨脹弁を更新して復旧。2月7日より運転を再開した。

2. 第1水槽室濾過槽の逆洗バルブ6個のうち老朽した2個を更新した。（荒賀忠一）

表2 処分した主な魚類の最大個体

種 名	入手当時の 全長 (cm)	飼育年数	全 長 (cm)	体 重 (kg)
ヒラスズキ	21	14	75	4.6
シマアジ	10	15	85	7.5
ギンガメアジ	14	13	70	3.7
ロウニンアジ	16	14	102	16.2
スギ	100	7	162	29.4
アオチビキ	35	10	81	7.4